



本件照会先

猿渡 映一(調査担当)
帝国データバンク
名古屋支店 情報部
052-561-4846(直通)

発表日

2026/07/24

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

「物価高倒産」 上半期は 32 件発生、 高止まり続く

2026 年上半期は「建設」が 37.5%で最多

東海 3 県・「物価高倒産」動向調査(2026 年上半期)

SUMMARY

東海 3 県(愛知・岐阜・三重)で、燃料や原材料などの仕入価格上昇により収益が維持できず倒産した「物価高倒産」は、2026 年上半期(1 月～6 月)に 32 件発生した。前年同期(34 件)からは 2 件減、前期(19 件)からは 13 件増となった。業種別では、2026 年上半期は「建設」が 37.5%で最も多くなり、資材価格高騰に苛まれる中小建設業者の「物価高倒産」が目立つ。

※株式会社帝国データバンク名古屋支店は、東海 3 県(愛知・岐阜・三重)における燃料や原材料などの仕入価格上昇により収益が維持できず倒産した「人手不足倒産」の発生状況について調査・分析を行った。

集計対象:負債 1000 万円以上・法的整理による倒産(2026 年 6 月末時点における判明ベース)

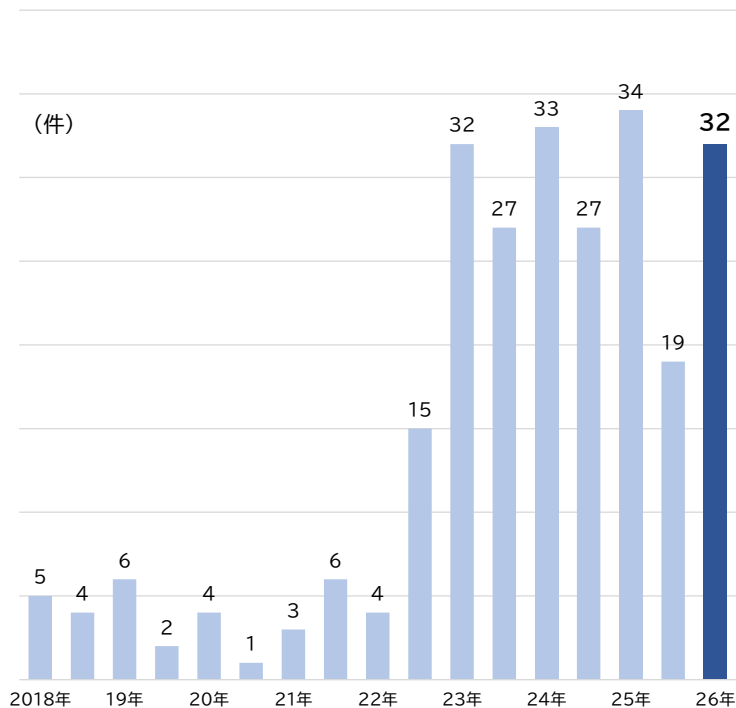
「物価高倒産」、2026 年上半期に 32 件発生

燃料や原材料などの仕入価格上昇により収益が維持できず倒産した「物価高倒産」（法的整理、負債 1000 万円以上）は、東海 3 県（愛知・岐阜・三重）で 2026 年上半期（1 月－6 月）に 32 件発生した。前年同期（2025 年上半期、34 件）からは 2 件減少したが、前期（2025 年下半期、19 件）から 13 件増加し、高止まりが続いている。

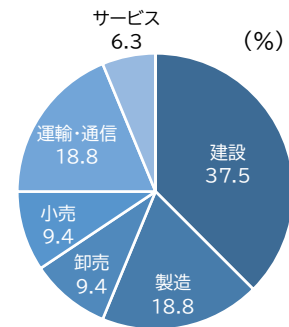
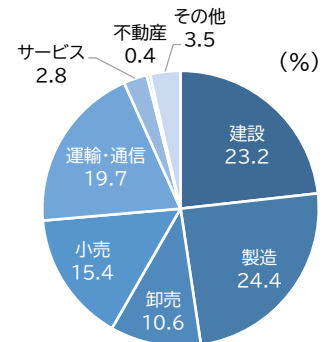
業種別では、集計開始以降の累計は「製造」が 24.4％で最多となったが、2026 年上半期では「建設」が 37.5％で最も多くなった。今年に入り「仕入単価 DI」が急上昇しており、価格転嫁力の弱い中小建設業者の「物価高倒産」が目立っている。

「物価高倒産」の動向

「物価高倒産」の件数推移（年上半期ごと）

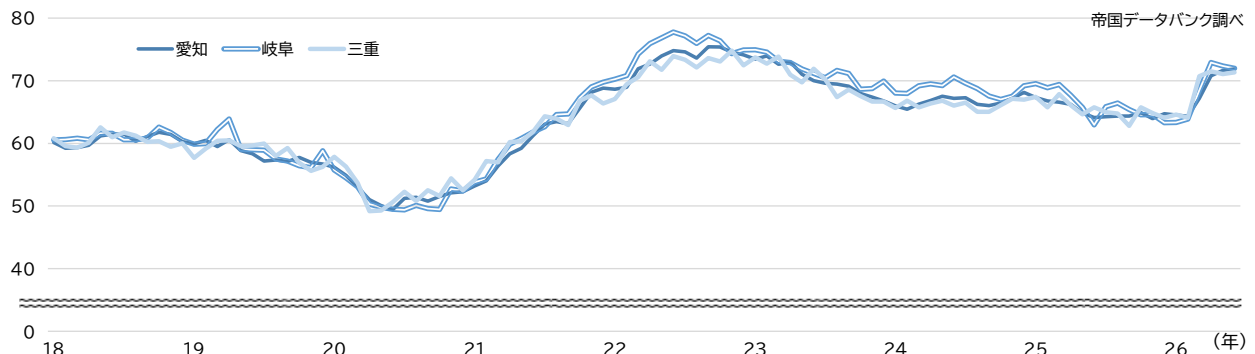


「物価高倒産」の業種別構成比
（上段：累計 下段：2026 年上半期）



※小数点以下第 2 位で四捨五入しているため
合計が 100 にならない場合もある

参考：東海 3 県別の「仕入単価 DI」の推移



※「仕入単価 DI」は、前年同月と比べて仕入単価が上昇（低下）したかを尋ね、それを DI 化したもの。「50」が判断の分かれ目で、それより高いと上昇、低いと低下となる